

今日のトピック 豪ドル為替相場は底堅い展開へ（2019年6月）
利下げの景気刺激効果や政府の財政政策に期待

- 2019年の豪ドルの対円相場は、4月に一時80円台を回復する局面もありましたが、その後は力強さに欠ける展開となっています。今回はその要因を確認していきます。

**ポイント1 成長率は前年同期比で減速
失業率は下げ止まり**

- 6月5日公表の2019年1-3月期実質GDP成長率は、前期比では+0.4%と前期の同+0.2%から加速したものの、前年同期比では+1.8%と前期の同+2.4%から減速しました。
- 2019年5月の雇用者数は、短期の変動を均したトレンド値でみて前月差2.8万人の増加となり、伸びは前月からほぼ横ばいとなりました。失業率のトレンド値は5.1%とこちらも前月からほぼ横ばいとなりました。

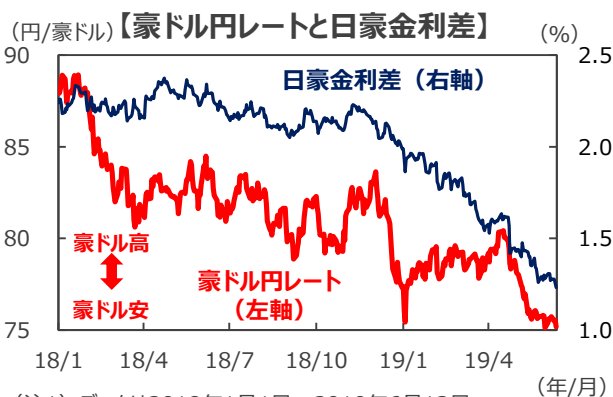
**ポイント2 RBAは利下げを実施
総裁は追加利下げを示唆**

- 豪州準備銀行（RBA）は6月4日に利下げを行いました。その背景には低インフレに加え、景気の減速や失業率の下げ止まりがあったとみられます。
- RBA総裁は4日の金融政策決定後の講演で「政策金利の低下を見込むのは不合理ではない」と発言し、今後の追加利下げの可能性を示唆しました。

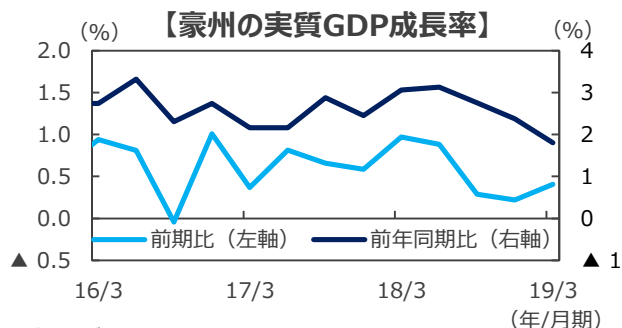
**今後の展開 利下げの効果や
政府の財政政策に期待**

- 追加利下げの可能性があるものの、今後の豪ドルについては、これまで複数回の利下げを織り込みながら下落してきたことや、投機筋が大幅に売り越していることから、当面の下落余地は限定的と思われる。
- 米中貿易摩擦の動向には要注意ですが、今後は利下げの景気刺激効果や、減税などの政府の財政政策が豪ドル為替相場を下支えすることが期待されます。

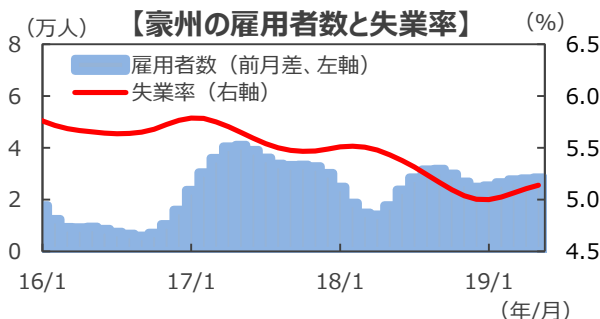
ここもチェック! 2019年6月 4日 豪州の金融政策：2年10カ月ぶりの利下げ（2019年6月）
2019年5月29日 豪ドル相場は底固めの局面（2019年5月）



（注1）データは2018年1月1日～2019年6月12日。
（注2）金利差は豪州－日本。金利はともに3年国債利回り。
（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に
三井住友DSアセットマネジメント作成



（注）データは2016年1-3月期～2019年1-3月期。
（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に
三井住友DSアセットマネジメント作成



（注）データは2016年1月～2019年5月。データはともにトレンド値。
（出所）Datastreamのデータを基に
三井住友DSアセットマネジメント作成

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。